

邇摩高校PTA広報

Y u r i n o k i



百合樹

第 2 5 号

平成 2 8 年 1 0 月 4 日
島根県立邇摩高等学校 P T A

百合樹 (ユリノキ)

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木。創立100周年の記念樹としても採用された。

PTA会長挨拶

橋田 正義



平素より皆様方には、PTA活動にご理解・協力いただきありがとうございます。ごさいます。

八月二十五日・二十六日、幕張メッセに約一万名が集った全国高等学校PTA連合会千葉大会に三島教頭と私とで参加させていただきました。

大会のテーマは「再発見！愛」サブテーマは「今こそ信じよう愛の絆」で、学校・家庭・地域社会とのつながり、「愛の絆」を確かなものにする意味がこめられていました。

基調講演では、PTA活動の在り方について、三つの提案がありました。一つ目は、早寝・早起き・朝ごはんの推進等、基本的な生活習慣の徹底化。二つ目は、オリ・パラをめざして、ボランティア活動の参加促進の支援。三つ目は、褒められた経験や叱ってもらった経験が乏しいため「褒めて叱って育てる」運動の推進。今一度、私たちがどのように行動し、関わっていくことができるかを問われました。

私の参加した第三分科会は「生徒指導とPTA」について、四校から発表があり、各校とも特色のある活動をされていました。その中で、朝食をしっかりと食べることによる好影響として、意欲・体力面が向上した発表もあり、保護者の方々が積極的に学校と関わりあっているのがよく分かりました。

我が校としても、子どもたちの個性や能力を伸ばし、豊かな心を育むためには、学校と

家庭が連携して支えることが必要だと思います。

邇摩高スローガンである「夢」「未来」「志」に対し、子どもたちが「夢をかたがり」「夢を育み」そして「夢をかたちに」するために、体験や出会いが大切となりますので、保護者の皆様に「ご協力をいただきましたながら、より良いPTA活動に貢献していきたい所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

PTA副会長挨拶

郷原 寿夫



今年七月、「中国・四国地区高等学校PTA連合会大会」に参加する機会をいただきました。

本年度の開催地は通称「うどん県」の香川県高松市。うだるような暑さの中、駐車場から会場に向かう道すがら、たくさんの方の皆さんの出迎えを受けました。おそろいのポロシャツに身をまとい、「こんにちは！」と、笑顔のあいさつ。スタッフ一体となった「おもてなし」の気持ちを感じました。

大会は、開会行事に続き、お祖父さんが香川県出身という縁で、演出家の宮本亜門氏が自らの体験を交えながら、「違っから面白い、違わないから素晴らしい」をテーマに講演。自身の幼少時代の体験を紹介し、成長を振り返りながら、「人と違っことを恐れず、一度きりの人生を無駄にしないで欲しい」と呼び掛けられました。

午後からの研究協議では、岡山県、高知県、香川県から発表があり、各校における熱心な

取組や活動について報告がありました。

最後に地元の高校生による発表。実は、これが一番心に残る行事だったので、琴平高校なぎなた部による「リズムなぎなた」、坂出第一高校料理研究部による「料理パフォーマンス」、そして、高松商業高校書道部による「書道パフォーマンス」は、いずれも完成度が高く、時間が経つのを忘れるくらい素晴らしいものでした。日頃の練習、取組の成果、そして何より自分たちのパフォーマンスをしっかりと出し切ろうと頑張る姿に感銘を受けました。

本年度から、大田市でも「高校の魅力化」に向けた取り組みが進められていますが、邇摩高校においては、以前より、先生方が一体となって邇摩高校の魅力化に取り組んでおられます。

生徒や地域にとって魅力ある学習や取組を進める学校、そして自分たちの目指す目標に向かって、しっかりと取り組んでいく生徒たちの姿、そんなことを重ね合わせながら会場を後にしました。

◆全国高等学校PTA連合会大会



校長挨拶



三島 一友

平素より保護者の皆様方には本校の教育活動に對しまして、ご支援ご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

台風や荒天の影響で十分な準備期間がない中、体育祭を予定通り九月一日に行いました。多くの保護者の皆様、地域の方々にご来校頂き、声援や励ましを受けた生徒たちは、「ジャンプ オーバー ユアセルフ」のスローガンのもと、あきらめないこと、自分の可能性に挑戦することをテーマに、競技や応援に熱心に取り組みました。漣摩高生が団結して友情を育み、思いやりに溢れる新しい伝統の風を巻き起こしてくれました。

この成果は、生徒会執行部と三年生各分団が一体となり、企画や運営の準備を夏休みから主体的に進め、充実した体育祭にしたいと願う二年生の熱意がもたらしたものだと思えます。見ている私たちに元氣と感動を与えてくれました。

さて、本年六月に「大田市内県立高等学校支援連携協議会」が設立され、市内の大田並びに漣摩高校が直面する課題に対して、大田市と一体となって多様な視点で議論し、魅力アップを推進していただくこととなりました。

平成二十六年四月に「島根県立漣摩高等学校活性化プラン」を学校独自に策定し、PTA A会員、卒業生会「松風会」の皆様のご理解とご支援のもと、魅力的なカリキュラムの編

成、故郷大田を意識したキャリア教育の推進、総合学科として五系列が一体となった教育活動の推進「銀の哲学」（総合的な学習時間）、相談機能の充実、特別支援教育の推進等を柱に教育活動を今日まで行ってきました。「地域に愛される高等学校」を目指し、この道しかないチーム漣摩高が一丸になり取り組んだ活性化プランを大田市内県立高等学校支援連携協議会の発足という形でご理解いただくことに繋がりました。

それにより、本年八月より教育魅力化コーディネーターの配属を頂き、早速全校集会で岡田真理子コーディネーターの紹介を生徒にしました。今後は大田市の「ひと・もの・こと」を更なる魅力化に繋げ、保護者、地域からのご期待や生徒にとって夢や希望に溢れる漣摩高校の創造に立ち止まることなくしっかりと責任を果たしていく所存であります。

また、今年度新たに生徒の意見を取り入れた教育活動の実践を行っています。漣摩高サミットと題して生徒会執行部、家庭クラブ役員、農業クラブ役員の生徒に学校行事や部活動、漣摩高フェア等について意見を求めました。主な意見としては、「文化祭の模擬店のだらしなさは問題だ、今年は改善したい」「また、「ファッションショーは生活系列の被服を学ぶ生徒の学習発表の場となっているが、他系列の学習発表の場もあって良いのではないか」更には、「地域で神楽を経験した生徒がいるが、地域の伝統文化を継承・発展させるために、ぜひ石見神楽同好会を作ってほしい」等々生徒自ら日頃の課題意識の高さに驚き、更に良くするために何が必要か建設的な討議をし、とても有意義な時間を過ごすこと

が出来ました。

先生方と協議してできることから生徒の願いを叶えてやりたいと、賛同する教員からの提案もあり、漣摩高校石見神楽同好会の発足を正式に許可しました。今後は生徒総会、PTA役員会等を経て、八調子にあわせて生徒が無い、漣摩高校の新しい文化の風となり、島根県から日本中に吹き抜けてくれると確信をしています。そのためにも、私達教職員はもとより保護者・地域の皆様のご理解ご協力も欠かせないものとなります。引き続き皆様方お一人おひとりの力添えを賜りますようお願いして、挨拶いたします。

一年生 保護者の声

PTA評議員

小島 英雄

今年の春から長女が漣摩高校でお世話になることになりました。

娘もそうですが、親も初めてのことばかりで慣れずに戸惑うばかりでしたが着々と高校生活に慣れていきました。

後期からは系列選択になりますが、早い段階で将来を考えていたので選択には悩まずスムーズに決まったようです。

この三年間で、いろいろなことを経験するうちに将来の道も変わるかもしれません、たくさん悩み考えて、自分の信じた道を進んでいってほしいとおもいます。

PTA評議員

吉山 友美

今年三月に長男が卒業。担任の先生方、系列の先生方に恵まれ、この春、無事に大学へ進学することができ感謝しています。

そして今年の春、息子と入れ替わりに娘も漣摩高校でお世話になります。入学してから少しずつ高校生活にも慣れてきたように思います。

これからの長い人生においても大切な時間となる高校三年間。しっかりと自分のやるべきことを見据え、将来の夢が叶うよう目標に向かって前進して欲しいと望みます。時には肩の力を抜いても良いと思います。充実した高校生活になることを願っています。

そして三年後、この漣摩高校を卒業できて良かったと思えるような三年間にして欲しいと思います。

PTA評議員

武間 篤

今年の春から、三男が入学し、親子ともども、初めて漣摩高校でお世話になることになりました。

息子は、将来農業をしたいとの理由で漣摩高校に進学しました。一言で農業と言っても、農業関連産業に就職するのか、自営業をするのか、また、農業の内容は何にするのかなど、色々あると思います。

今はまだ、曖昧な夢かもしれませんが、これからの高校生活で色々な人との関わりや経験をする内に、はっきりとした未来図に変えて欲しいと思います。そして、その実現に向けて前進して欲しいと思います。



教職員の声

「目標・夢・理想」

教務部長 松本 博

私は教員になってから長く弓道部の顧問をさせてもらっています。初心者として弓道を始めても三、四か月でそれなりのかたちになり、中には日ごとにメキメキと上達していく生徒がいます。まずは的まで矢を飛ばそう、初めの中を出そう、半矢(的中率五割)を目標としよう、など目標を立てやすい競技なのかもしれない。その目標を一つずつ達成していく先に県での優勝、上位大会への出場、最終的には全国優勝という夢に繋がります。

「夢」というだけであって簡単には叶えられません。ただ、順調に上達してほとんどのを外さなくなった、という所から弓道は難しくなる気がします。次の目標が見えなくなるでしょう。そこで「理想」が重要になります。「夢」とは違い、「理想」は永久に追い求めるものであり、それが弓道の「道」の部分である気がします。「生涯教育」の重要性が叫ばれています。私たちが充実した日々を送るためには常に自分を高めようという意識が必要なのかもしれません。

「平成二十八年度の求人状況について」

進路指導部長 布施 武司

七月一日から高等学校への求人票の受付が開始され、本校は八月十七日現在で県内就業の企業を百二十一件、県外就業の企業を三百二十一件受理しました。三年生の進路希望調査によると県内就職二十九名、県外就職四名

公務員五名で三十八名が就職を希望し、五十一名が進学を希望しています。数字の上では県内求職生徒一人に対して四件分の求人をお願いしたことになります。県内就業の企業百二十一件の内訳は技能・生産職五十二件、事務職五件、営業・販売職十五件、介護職や調理員などのサービス職、警備職などその他の職として七件でした。事務職五件というのは少ないと感じられると思いますが、件と表示しているのは求人票の枚数を表しており、実際は一件で複数生徒の応募が可能な企業もありましたので、九名分の求人となりました。

昨今、県内・地元企業も積極的に県内の高校生を採用しようとしています。以前のよう「とりあえず若いうちは県外に出て」という発想は持たなくてもよくなっていると思います。県外にこだわっていないければ、まずは地元企業の中から検討してみてもどうでしょう。

「自分への挑戦を」

一年学年主任 坂井 智子

夏休み明けの一年生の様子を見て、担任の先生と「〇〇さん、四月に比べると随分変わったね」と話す機会がありました。当人には分からない些細な変化かもしれません。内面の落ち着き、自信のようなものを感じさせる表情の明るさを嬉しく思い、同時に生徒は日々いろいろなことに向き合い、葛藤しながら成長しているのだと改めて感じました。

今年はおリンピック・パラリンピックイヤーで、数多くの名勝負・名場面への感動は未だに忘れることができませんが、その源泉は選手の「限界に挑む姿」にあり、特別な「場」

が感動を生むのではないと思います。人と競うのではなく自分と戦い、今までの自分を越えて成長していく。適摩高生に沢山感動をした。いと願っています。ご家庭でのご支援も、どうかよろしく願います。

「耐力」を身に付けよう

二年学年主任 櫻井 英也

リオ五輪で盛り上がった八月、大リーグではイチロー選手がメジャー通算三千安打を達成しました。大リーグ史上三十人しか達成していない大記録で、今なお進化し続けるイチロー選手のパフォーマンスには驚かされるばかりです。十数年前、イチロー選手がオフシーズンに日本に戻り、小学生を対象に開いた野球教室のことです。小学生が「どうしたらイチロー選手のように打てるようになりませんか。」と質問したところ、イチロー選手は少し考えたのち、「勉強を頑張りなさい。」と答えたのです。技術的な答えを期待していた小学生は「一瞬「えっ?」と戸惑いの表情を見せましたが、イチロー選手の真意は「苦手なことや嫌いなことから逃げずに取り組むことが必ず野球の力になる」というものだったようです。四十二歳の今のイチロー選手といえは、試合前の「入念な準備」が有名です。レギュラーを約束されていないなかで、いつやってくるかわからない自分の出番のために準備を続けるイチロー選手にとっても、もしかしたらこの準備は面倒で苦痛なことなのかもしれません。しかし、そのことから逃げない「耐力」を持ち合わせていることが、イチロー選手の今日の活躍を支えているのです。私たちも自らの未来のために苦手なことや面倒なこと

とから逃げない「耐力」を是非、身に付けましょう。

体育祭分団長コメント

「青心統一」

青軍 三年一組 河野 秀太

こんにちは。青軍分団長の河野秀太です。夏休みの終わりから準備を始め、とても短い期間でしたが三年生の皆で協力して頑張りました。学校が始まって後輩の皆に初めてダンスを教えた時に、真剣に応援練習に取り組んでくれたおかげで、なんとか本番に間に合うことが出来ました。そして、応援一位を取ることが出来ました。本当についてきてくれて、ありがとう！衣装でも一位を取れたし、デコも僕が見た中で一番素敵なデコだったし、本当に皆、頑張ってくれたな！

団長らしいことは何もできなかったけど、体育祭が終わった後の皆の笑顔とやりきった顔を見て、団長をして良かったと思えました。体育祭はどうしても順位がついてしまうけど、優勝する事よりも大切なことに皆、気が付けたと思います。皆のおかげで最高の思い出が出来ました。本当にありがとう。

「やっぱり赤がナンバーワン!」

赤軍 三年二組 大野 嗣将

こんにちは。赤軍分団長の大野嗣将です。最初の分団集会、校歌合戦の時から赤軍の分団長として、自分がみんなをまとめることが出来るか不安でしたが、三年生を含め二年生がついてきてくれて本当に助かりました。結果は最下位という結果になってしま

ましたが、みんなの笑顔がたくさん見ることが出来たので、団長をここまでやってきて良かったなと思いました。自分の我がままで応援や入場行進に猫ひろしさんの「にやー」を使わせてもらってすごく楽しかったです。つまらないギャグですが、それを全力でしてくれたみんなに感謝です。でも、やっぱり悔しいのは賞状を一つもらえなかったことです。でも、みんなが体育祭を楽しんでいたのが良かったです。

一年一組、二年一組のみんな、そして三年二組のみんなありがとう。

「十年のジंकクス」

紫軍 三年三組 吉田 亘

こんにちは。紫軍分団長の吉田亘です。まず初めに生徒、保護者、教員の皆様、ありがとうございました。お疲れ様でした。

僕達三年生は、夏休みの終わりから準備を始め、短い期間でしたが、皆で協力して考えたり教え合ったりして頑張りました。正直、下級生がついてきてくれるかなとか心配で、不安なこともたくさんありました。でも、三年生が支えてくれたし、一、二年生も暑い中、テンションを上げてついてきてくれて、とても助かりました。メッチャ嬉しかったです。僕は、あまり団長らしいことはできなくて、皆を笑わすことしかできなかったけど、皆のメッチャ良い笑顔を見ることができて幸せでした。自己満ソリー応援と衣装は悔しい結果だったけど、皆が最終最高の笑顔だったし、前々から言っていた、紫軍で優勝して、ジंकクスを破ることができて、終わり良ければ全て「よし田亘」です。

本当にこんなに素晴らしい年の団長にしてくれて、ありがとうございました！最高に楽しかったです！

◆入学式の様子



校長式辞



PTA 会長祝辞



宣誓

花田 朱里さん



1年3組 担任 澄川 陽子 先生
副担任 山岸 弘一郎 先生



1年2組 担任 山田 あかね 先生
副担任 下山 圭司 先生



1年1組 担任 小林 秀光 先生
副担任 三瓶 彩子 先生

